

# 教育課程編成委員会

記録者 高橋正行

1. 日時 令和4年9月～10月 17:00～
2. 場所 新館
3. 出席者 内部委員（敬称略）池田昌央、阿見芳明、境田三由紀、星野丈二、高橋正行  
外部委員（敬称略）吉田三晃、吉田昌央、石井孝治、竹野内宏明、堀口麻里、永井良幸、石川真樹

## 【分科会】

### ■理容科

池田委員：前期に開催した「サロンブランディング開発プロジェクト～学生プレゼーション」をさらに発展させるため、教職員間でも振り返りを行ったところである。

委員の意見をお聞かせ願いたい。

吉田（昌）委員：毎回ゼロベースで一からやり直しとするのではなく、部門を設定し、継続的な進化を検証することが合理的ではないか。

例として、メンズサロン・シェービングサロン・原宿系激战区・高級サロンといった部門はどうだろうか。

吉田（三）委員：学生ならではの発想を大事にして、尖ったサロンを作ってほしい。

とはいえ、財務も無視してはならない。数字の現実性やリアリティを理解したうえでサロンのコンセプトを考えると、もっとよくなると思う。

吉田（昌）委員：SNSの活用といった昨今の若者こそが得意としている集客方法も学べるとよい。商売っ気はなくて、自分の好きな事を発信することで共感を得るという発信の仕方とマーケティングを関連づけることも学ぶべき点だと思う。

### ■美容科

阿見委員：今年度のキャリア教育の予定は以下のとおり。

5月19日 業界人（サロンオーナー、本校卒業生）

6月22日 卒業生（大型店舗スタイリスト兼店長）

7月6日 卒業生（都心部勤務、スタイリスト）

これらの授業の狙いは、

- ① 美容業界の業態を知ること
- ② 自分の将来像を明確にできる情報を得ること
- ③ キャリアプランニングの仕方を学ぶこと

の3つである。

石井委員：業界と連携して授業『キャリア教育』を行なうことは非常に良いこと。

業界人の生の声を聞けることは、学生たちにとって大きな学びになる。

業界人講師と学生との間でディスカッションを行うことも良いのではないか。

竹野内委員：私の担当している授業の中でもキャリアについて話していきたい。私のサロンには、勤続年数がそれぞれ 1・2・3 年目の若いスタッフがいるので、学生時代にどんな将来像を描いていたのか、どのように就職活動を行ったのかを聞き取ろうと思う。何か参考となるかもしれない。

## ■ビューティアーティスト科

星野委員：本年度の結果から判断するに、要改善点は資格取得に向けた取り組みと考える。

石川委員：検定対策の時間数、学生のモチベーションあるいは教職員の負担など、あらゆる側面から検討しなければならないが、何よりも学生と教職員の動機づけが必須だと思う。must（～しなければならない）から、want（～したい）へと学生の意識を転換する方法を考えなくてはならない。

「しなきゃ、やらなきゃ！」といった義務感や苦行意識を植え付けるのではなく、「したい、やりたい！」と学生がポジティブに感じられ動機づけの在り方を、ともに考えたいと思う。

## ■ビジネス美容科

境田委員：動画教材の活用を検討している。

スマートフォンから学べる、『学びを身近に』を実践したい。

永井委員：業界全体が各企業（店舗）において、動画教材を活用しながら新人研修や技術勉強を行なっている。昨今の ICT 化の進展は著しいので、積極的に動画教材を取り入れるべきと考える。

堀口委員：エステティックに関する YouTube は多い。学生が観ても勉強になるような基礎的な手技動画も多くある。それらを参考にして、この学校独自の動画教材を作成してみてもどうか。

以上